自治会ニュース

No.36

全学自治会中執委員会 9/7

昨日の府学連デモ(350)をステップに

10.6大阪府学一万人集会-8羽田現地斗争-佐藤の訪ベト阻止へ各クラスは隊列を整備せよ!

——ベトナム=安保研の展開を!

——10.8羽田斗争、クラス代表派遣の討論カンパを!

昨日の「佐藤の東南アジア訪問阻止」大阪府学連統一行動は、三五〇名の学友(市大一三五)を結集し、東京でのデモンストレーションと斗われた。機動隊の挑発、暴行と、隊列内部の一部脱落分子の妨害にもかかわらず、10.6のベトナムデモは全学連としてはじめて、10.8羽田斗争の先ブレとしての意義と、10.8の羽田斗争の展開の重要さをあきらかにした。

昨日のデモの意義の第一は、佐藤訪問、自らの全生涯を賭ける極悪的に展開する佐藤に想定こめて、それに対する我々の側の抗議の意志と、内外に明らかにすることであった。即ち、佐藤訪問など二の次に、昨日からサン・次東南アジア訪問、10.8に向ベトナムをふくむ、オそ次東南アジア訪問、11日上京に対する抗議を展開し、昨日は、その起点であった。

佐藤内閣は、二の一連の外交の中で何をねらうのか。それは、南ベトナムを頂点とした東南アジアの「政治的安定」ベトナムにおいては、すでに支配支配限しつつあるしの中で4億ドルの手みやげを持ち出した意味がある。それは、ベトナムにおける「軍事的安定」参加=直接出動であり、その他の地域における「軍事的安定」の中心としてアメリカの、軍事ニーア支配における佐藤内閣の役割と、それを通じての、自らの新植民地主義的支配強化である。オそに、前述において、それらの東南アジア支配の体制である、ジョンソンと強化するお例である。これらの事実は、日米安保体制の質的強化として行われるを背に、10.8羽田斗争への重大な布石として存在するのである。

昨日のデモは、その意味で、我々のデモの起点であった。我々の隊列と、さらに強化し、10.6大阪府下各学生一万人集会、10.8羽田現地斗争へ発展させなければならない。10.8の羽田現地斗争に市大から大量動員し、現在の学生組織の分断化にたいし、学部別の各単位自治会斗争として展開されなければならない。

学友諸君! この闘いを試験の中ではあるが、早急にその体制を作り上げようではないか。それは、オそに、ベトナム安保研究会である。(ベトナム資料はあります) オそに、ベトナム安保研究会である。オそに、各クラスの羽田斗争準備を準備し、討論へカンパに参加することである。すでにしEBは9日、LECは8日羽田へ出発する。

代議員会 9月23日(土) 1:30~ 211教室